

2016 年 5 月（日本国大使館）

安 全 情 報

～邦人の犯罪被害状況～

「自分の身は自分で守る。」をモットーにカンボジアライフを楽しく、良い思い出をつくるため、安全情報を提供させていただきます。

1 カンボジア国内における邦人の犯罪被害状況

昨年中（2015 年 1 月～12 月）、当館で把握した邦人犯罪被害件数は計 89 件でした。内訳は以下のとおりです。

(1) ひったくり 48 件（うち旅券被害 31 件）

- 男女別被害者数
男性 27 人／女性 21 人
- 在留・短期渡航者別被害者数
在留邦人 16 人／短期渡航者 32 人
- 発生地域別被害件数
プノンペン都 46 件／シェムリアップ州 2 件
- 移動形態別被害件数
 - ・ 徒歩で移動中 26 件
 - ・ トクトックで移動中 17 件
 - ・ 自転車で移動中 2 件
 - ・ オートバイで移動中 2 件
 - ・ カジノ店内 1 件
- 犯人の犯行時の状況
 - ・ オートバイに乗車 46 件
 - ・ 徒歩 2 件

(2) いかさまカード賭博詐欺 20 件

- 男女別被害者数
男性 14 人／女性 6 人
- 在留・短期渡航者別被害者数
在留邦人 1 人／短期渡航者 19 人
- 発生地域別被害件数
プノンペン都 18 件／シェムリアップ州 2 件
- 被害者が最初に被疑者に声を掛けられた場所
＜プノンペン都＞
 - ・ 王宮付近 3 件
 - ・ イオンモール内 3 件
 - ・ 国立博物館付近 2 件

- ・ 独立記念塔付近 1 件
- ・ オールドマーケット 1 件
- ・ スーパーマーケット前 1 件
- ・ 徒歩で移動中 6 件
- ・ 不明 1 件

< シェムリアップ州 >

- ・ 日本レストラン前 1 件
 - ・ 郵便局前 1 件
- 国籍（自称）・男女別被疑者数（声を掛けてきた被疑者）
- ・ タイ人（男性 2 人／女性 2 人）
 - ・ インドネシア人（男性 2 人／女性 2 人）
 - ・ マレーシア人（男性 2 人／女性 1 人）
 - ・ カンボジア人（男性 1 人／女性 1 人）
 - ・ フィリピン人（女性 2 人）
 - ・ 不明 5 人
- 具体的な声かけ事例
- ・ 「これから家でご飯を食べないか。」
 - ・ 「家で誕生日会をするので一緒にどうか。」
 - ・ 「以前、日本に住んでいた妹が友人から日本語の手紙を受け取ったが、読めないため、家に来て手紙を読んでほしい。」
 - ・ 「今度妹が日本に行くので相談に乗ってほしい。」
 - ・ 「これから日本で働くから漢字を教えてほしい。」
 - ・ 「これから介護の仕事で日本に行くので日本のことをいろいろ教えてほしい」

(3) **侵入盗 8 件**

- 発生地域別被害件数
プノンペン都 7 件／シェムリアップ州 1 件
- 場所別被害件数
ホテル内 6 件／自室内 2 件
- 時間帯別被害件数
日中 4 件／夜間 4 件
- 在不在別被害件数
外出中 4 件／在室（就寝）中 4 件
- 盗難方法（事例）
- ・ 外出先中に、ホテルのベッドマット下に隠していたバッグの中に入れておいた現金 200 ドルのみが無くなっていた。
 - ・ 外出先からゲストハウスに戻ったところ、部屋においていたバッグが無くなっていた。

- ・ ホテルに就寝中にハンガーを使用してバッグを盗難された。
- ・ 自室で就寝中に棒のようなものを使用してバッグを盗難された。

(4) 置き引き 6件

- 男女別被害者数
男性 6人
- 在留・短期滞在別被害者数
在留邦人 2人／短期渡航者 4人
- 発生地域別被害件数
 - ・ プノンペン都 5件（ソリヤモール内1件、レストラン内1件、セントラルマーケット内1件、作業現場内1件、ゲストハウス内1件）
 - ・ シェムリアップ州 1件（ゲストハウス内）

(5) すり 5件

- 男女別被害者数
男性 2人／女性 3人
- 在留・短期渡航者別被害者数
在留邦人 2人／短期渡航者 3人
- 発生地域別被害件数
プノンペン都 5件
- 発生場所別被害件数
 - ・ イオンモール内1件
 - ・ オリピックマーケット内1件
 - ・ オートバイタクシーで移動中1件
 - ・ 長距離バスで移動中1件
 - ・ オリピックスタジアム付近1件

(6) 強盗（昏睡強盗） 1件

- 男性短期渡航者が深夜、プノンペン市内のホテル1階のバーで飲酒していた際、自称トルコ人及びスリランカ人に声をかけられて一緒に飲酒し、その後、別な場所で飲酒するために3人で外出したが泥酔してしまい、気づいた時はホテルの自室であった。所持品を確認したところ、現金100ドル及びキャッシュカード1枚が無くなっていた。

(7) 恐喝 1件

- 男性短期渡航者が日中、セントラルマーケットを散策中に自称カンボジア人の男性から自宅での昼食に誘われて昼食を食べた後、自宅にいた仲間からお金を出せと脅され現金500ドル及びカメラを取られた。その後、暫くその場所で監禁され、更に、クレジットカードで300ドルを引き出すように言われ、言われるがまま300ドル引き出して渡したところ解放された。

2 犯罪被害防止対策

(1) 路上・店内犯罪（強盗、ひったくり、すり、置き引き）被害防止対策

ア 徒歩による移動中において

- 外を歩く際は、出来る限り手荷物を持たないようにし、可能な限り両手を自由にしておく。
- やむを得ずバッグ等を所持する場合は、高価なバッグ等は避けて、バッグ本体を車道側に下げない。
- バッグの中に貴重品（特に旅券）は入れない。不必要に多額の現金を持ち歩かない（使用する予定の現金のみ持ち歩く）。又、ズボンの後ろポケットに財布を入れない。
- バッグは肩に掛けているとひったくられやすく、また、タスキ掛けにした場合は取れにくい反面、強奪された際、負傷する可能性が高いことを認識する。※ タスキ掛けにした場合は両手で抱える。
- 夜間の徒歩による外出はできる限り避け、日中でも徒歩による移動は控える。
- 外出中は不審者や尾行者がいないか時々確認し、不審者等がいるのを確認したら、子供であっても油断せず、人が大勢いる商店等に待避してやり過ごす。
- 女装した男性や子供による抱きつきすりも報告されていることから、近付いてくる女性や子供を安易に受け入れない。

イ 車両（トゥクトゥク）による移動について

- 移動は出来る限り自家用車又はメータータクシーを利用し、なるべくトゥクトゥクは利用しない。モトドップ（オートバイタクシー）は交通事故の危険性もあることから極力利用しない。
- トゥクトゥクを利用する場合には、出来れば利用したことのある信頼できるドライバーに依頼する。或いはホテルやレストランの従業員に顔見知りの運転手と呼んでもらう。
- 乗車してからも気を抜かず、指示と異なる方向に向かっていないか常に周囲の様子を確認する。
- 乗車中も「オートバイに乗った犯人にバッグをひったかれるかも知れない」との意識を常に持ち、常に気を抜かない。
- 乗車中、バッグを人目に付きやすい車内の椅子の上や膝上に置かない。バッグは手でしっかり抱きかかえる、又は、タスキ掛けにする等の方法によりひったくり犯に狙われにくいようにする。

ウ レストラン等の店内において

- 席を離れる時は貴重品やバッグをその場に置きっ放しにしない。
- バッグを隣のイス等に置いた場合、置き引きの危険性があるため、膝の上に置く、又は食事中もタスキ掛けにしたままにして身から離さ

ないようにする。(置き忘れの防止にも役立つ。)

(2) 侵入盗被害防止対策

- 出入口ドアに鍵(チェーンロックも取り付ける)を2個以上備え、外出・就寝時は確実に施錠する。
- 外出中でも部屋に貴重品を出したままにしない。必ず施錠した金庫等に入れておく。
- 高層階だからと過信せず、外出・就寝時も窓を開放したままにしない。
- 入居に当たっては、警備員が常駐して防犯カメラ等の警備設備の整っている建物を選定する。

(3) いかさま賭博防止対策

- 旅行中や滞在先に知り合った見知らぬ人の誘いに応じて一緒に行動したり、宿泊や食事を一緒にしたりしない。
- 知り合った人物に安易に自分の宿泊先や連絡先、滞在先を教えない。

カンボジアは、過去と比較して安全になったイメージがありますが、凶悪なものを含む犯罪が依然として頻繁に発生しています。「日本とは違う」ということを常に念頭に置き、○危険な場所には近づかない、○夜間に人通りが少ない道の1人歩きはしない、○深夜の不要の外出は控える、○多額の現金や貴重品は持ち歩かない、○見知らぬ人を安易に信用しない、○買い物は信用のおける店を選ぶ、○ホテルの中でも安心しない、○犯罪に遭遇した場合抵抗しない、など「自分の身は自分で守る。」をモットーに防犯に心掛けて下さい。